

畜大だより

OBIHIRO UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND VETERINARY MEDICINE

2025. 4. 1



(撮影：畜産科学課程 3年 中谷 涼華)

目次

新入生諸君へ 課程・別科紹介

在来生所感

学生支援課から

学 長	長 澤 秀 行	1
共同獣医学課程	教 授 佐々木 基 樹	2
畜産科学課程	教 授 西 田 武 弘	3
別 科	准教授 秋 本 正 博	4
共同獣医学課程	2 年 三 賀 蒼 生	5
畜産科学課程	2 年 山 根 智紗乃	5
畜産科学課程	2 年 松 崎 優 芽	6
別 科	2 年 鳥 渕 永 治	6
学位記並びに修了証授与式の開催		7
飲酒に関する注意		8
交通事故防止について		8
SNSの利用にあたって		9
消費者トラブルに巻き込まれないために		9



国立大学法人北海道国立大学機構

帯広畜産大学

新入生諸君へ



「入学おめでとう」

学 長
長 澤 秀 行

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

今年も、全国から新入生を迎え、令和7年度がスタートします。皆さんの多くは生まれ育った土地を離れ、今ここに、進む道を同じくした仲間たちと共にいます。皆さんは、異なる環境で育ち、それぞれが違った能力をもってこの場にいます。本学への入学動機は何でしょうか。将来の夢実現に向けた農学、畜産科学、獣医学の学び、各種の国際教育プログラムへの参加、多くの動植物を目の当たりにしたオープンキャンパスの訪問、本やテレビなどで本学が紹介されているのを見聞きした、ただ親元を離れたかった、親が本学の卒業生など様々なことと推察します。中でも、よく耳にするのは、雄大な北海道の自然の環境の中で、学生生活を送りたいというものです。

昨年、新たな国立公園として「日高山脈襟裳十勝国立公園」が環境省に承認されました。日高山脈を中心に南北140キロにわたる手つかずの自然環境が数多く残る、面積約25万ヘクタールの国内最大の国立公園です。北には、北海道の最高峰である旭岳、活火山の十勝岳を含む「大雪山国立公園」、東には国立公園の中でも原始的な姿を有し、マリモで有名は阿寒湖、日本一透明度の高い神秘の湖の摩周湖がある「阿寒摩周国立公園」があります。それらの裾野には、関東平野、石狩平野に次いで3番目に広い十勝平野が広がり、平野の中心を流れる十勝川は太平洋沿岸の豊かな漁場に繋がっています。地平線を望むことのできる雄大な自然環境は、北海道の中でも特に素晴らしいものです。

三方山に囲まれ、晴天率が高く、一日の寒暖差が大きい十勝特有の自然環境は、十勝の基幹産業である畜産、酪農、畑作にも大きく寄与すると同時に、

本学の教育研究を進める上で、大きな強みとなっています。

本年2月4日に、「観測史上最大 帯広 24時間で124cmの積雪」が全国ニュースとなり、全国から災害級の大雪を心配するメールが多数届きました。1月中は積雪がほとんどなく、農作物への影響を心配していました。雪は降水量としても重要ですが、秋まき小麦や春掘り長芋の凍結を防ぐ効果があります。自然をコントロールすることは困難ですが、科学的に対応策を講じることは可能です。

日本の食料生産の中心地として、「生産から消費まで」一貫した環境が揃う十勝に位置する本学は、生命、食料、環境をテーマに、農学、畜産科学、獣医学に関する教育研究を推進する、我が国唯一の国立単科大学です。本学のミッションは、「知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、『食を支え、暮らしを守る』人材の育成を通じて、地域及び国際社会に貢献すること。」です。

皆さんには学業の他に、クラブ活動やボランティア活動などにも積極的に参加していただきたいと思っています。十勝の開拓の歴史を知り、地域の多様な人々の考えや文化に触れることも大切です。そうした学業以外のアクティブな時間を送ることによって、多様性を受け入れる人間性が育まれ、大学生活は豊かになります。新しい学びあいのコミュニティは、大学の内外に存在しています。

新入生の皆さんが、それぞれの目標に向かって、志を高く持ち、悔いのない学生生活を過ごし、生命・食料・環境分野の専門知識、社会に通用する教養、社会情勢の変化や諸課題に対応可能な応用力やコミュニケーション能力を身につけ、人間的に大きく成長されることを祈念します。



教授
佐々木 基 樹

共同獣医学
課程

共同獣医学課程の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本学の共同獣医学課程を志望した理由は様々かと思いますが、これからの6年間の獣医学教育によって、皆さんは多くの幅広い知識を習得し、これまで抱いてきた、または入学後に新たに抱いた夢の実現へと向かって進んでいくことになることでしょう。この入学を機に、皆さんは自由に「学ぶ」ことができる恵まれた環境にあることを再認識して下さい。この6年間の大学生活において、獣医学はもとより多くの分野の知識を積極的に吸収することで、豊富な知識と人格を兼ね備えた獣医師として皆さんが社会に貢献していくことを期待しています。

帯広畜産大学と北海道大学は、2012年度から共同獣医学課程（VetNorth Japan: VNJ）を開設し、今年度の入学生が14期生になります。この共同獣医学課程では、統一されたカリキュラムにおいて教育がなされ、それぞれの大学がもつ強みを生かし、弱い部分を補完し合うことで質の高い獣医学教育を可能にしています。帯広畜産大学は、広大な十勝という酪農や食肉生産といった畜産業が盛んな地域に位置していることから、産業動物臨床や食品衛生といった分野が充実しています。一方、北海道大学では、伴侶動物臨床や人獣共通感染症といった分野に強みがあり、皆さんはこれらの分野を含む多くの獣医学関連科目を両大学の教員から学ぶことになります。

また本共同獣医学課程は、2019年の12月に欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の獣医学教育の欧州基準認証を取得し、国際水準の獣医学教育を実践していることが認められております。今後、この獣医学教育の水準を維持・発展させていくことは本学の責務であり、VNJの獣医学教育改善には皆さんの

協力が必要不可欠となります。教職員とともに皆でVNJを発展させていきましょう。

共同獣医学課程では、2019年度から新カリキュラムがスタートしており、1年生の講義は教養科目を中心に行われ、専門科目としては帯広基礎獣医学演習や農畜産演習が実施されています。帯広基礎獣医学演習では、帯広で北大生と一緒に獣医学の概要に関して学び、また本演習は両大の学生が交流を深める切っ掛けにもなっています。また、農畜産演習では獣畜融合の観点から、と畜実習や搾乳実習などが行われ、「いのち」と「食」を考えるうえで貴重な体験となることでしょう。2年生からは獣医専門科目が本格的に始まり、基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学の講義・実習が体系的に実施されます。4年生になると臨床獣医学に関する科目が加わり、参加型臨床実習（ポリクリ）に参加するための基礎的な知識と臨床技術の習得がなされます。5、6年生では実際に獣医療現場に参加するポリクリが実施されますが、このポリクリを受講するにあたっては4年生の終わりに実施される共用試験に合格する必要があります。また、5、6年生では課題研究が行われ、研究のノウハウを学びます。さらに研究を続けたい学生さんには、本学大学院に獣医学専攻博士課程が設置されていますので、進学も選択肢の1つになるでしょう。

これから、獣医師になるためのハードな日々がはじまりますが、本来、自身がやりたいことであればそれをも楽しむこともできるでしょう。また、課外活動などにも積極的に参加してバランスのとれた健全な大学生活を送って下さい。この6年間の帯広での生活が、夢実現への第一歩になることを願っております。



教授
西田 武 弘



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご家族の皆様にも心よりお喜びとお祝いを申し上げます。

本学は国立で唯一の農畜産系単科大学として、1941年に創立いたしました。単科大学とはいえ本学がカバーする学問領域は広く、畜産科学課程には生命・食料・環境の多様な分野を科学する家畜生産科学、食品科学、環境生態学、植物生産科学、農業経済学、農業環境工学の6つの専門ユニットがあります。

一年次、皆さんは各ユニットが開講する「農畜産科学概論Ⅰ～Ⅵ」と、それに連動した「全学農畜産実習」を受講します。これらの入門科目は教養科目や語学とともに、基礎を固めて視野を広げていく上でとても重要なステップとなります。生命とそれを育む環境、そしてそれらを利用して作り出される食料について深く考えることで、食料生産を支える“心”を育みます。

二年次からユニットに所属し、知識を理論的、かつ系統的に深めていく課程に入ります。このあたりから、大学らしい内容の講義や実習が増えてきます。ここで取り残されないように、基礎をしっかりとさせておくことが重要です。

三年次になると、さらに専門的な展開教育が始まります。後期からは研究室に所属し、担当教員の指導のもとで卒業研究に取り組みます。卒業研究は主体的に研究に取り組む科目で、もっとも大学らしく、4年間の集大成とも言える課程です。進路の選択や研究がうまくいかなかったりして悩むことも多い時期ですが、大学時代の思い出の多くはこの時期に作られます。

この課程で研究の面白さや研究者としてのキャリアに目覚めた人には、大学院への進学をお勧めしま

す。大学院畜産学研究科畜産科学専攻ではユニットに対応したコースに加え、動物医科学コースの7つの修士課程コース（博士前期課程：2年間）と、それに続く博士課程（博士後期課程：3年間）を提供しています。

本学では、他の大学にはない講義や実習として、馬に関する「丈夫な馬づくり学」「実践競走馬学」「乗馬・飼養管理実習」や、酪農地域である特色を生かした「チーズ学」「チーズ製造実習」、構内の酒蔵と共同した「清酒学」「清酒醸造実習」などがあります。入学後に、十勝の美味しいものを食べて、専攻先を入学前の希望と変更した先輩もいます。

本学は全学生数が1,500人前後の規模が小さい大学ですが、全国から学生が集まっています。またアジア、アフリカ圏を中心に多くの国々からの留学生を受け入れており、教員の多くも海外の試験研究機関との共同研究やJICAの研修コースなどに関与している、国際色豊かな大学です。海外研修、留学などの機会も用意されています。

国内有数の農畜産地帯である十勝には、大規模かつ先端的な農家や企業が多く存在する一方で、多種多様な個性的な乳肉製品や農産物を生産している中小規模の農家も数多く存在します。まさしく、農畜産を学ぶ上で最適な実学環境と言えるでしょう。豊かな食生活を通して食を知り、食を楽しむことも農畜産や食料生産を学ぶ上で重要な実学となります。

入学後、皆さんの多くは親元を離れこの地で新しい生活をはじめることになります。今までに経験したことがない、悩みや困難にぶつかることもあるでしょう。そんな時、自分自身で考え、問題を解決し、前に進む勇気を持ってください。皆さんが生き生きと新しい生活を始められることを祈念しています。



准教授
秋本 正博



別科・酪農専修に進学した新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。別科主任を務めております秋本正博です。都府県から来た人には、まだまだ肌寒い頃かと思いますが、ここ最近の十勝は昔に比べて冬期も気温が高く、生活上は過ごしやすい気象になってきました。気候変動がことさら現実の事として認識されるようになりしばらくが経ちます。緯度の高い地域ほど気候の変化の幅が大きいようで、十勝に暮らす我々や自然の生き物も、年ごとに変わる季節感へ順応するのに甚だ難渋しています。農業にもその影響は深刻に現れだしています。北海道で最も頻繁に栽培される牧草種は、イネ科のチモシーです。チモシーは寒さにこそ強いものの、裏返しで暑さは苦手です。そのため、昨今の暑さで夏の間に弱ってしまい、思うように餌の生産ができなかったり、ひどい場合は牧草地を枯らしてしまったりといった問題が頻出しています。

農業の世界では、これまでも幾度となく方向転換を強いられる大きな問題が発生してきました。先人達がそのような問題を「経験」と「知恵」で乗り切ってきたのは、皆さんも知るところかと思いますが。ただ、我々が昨今直面している問題は、これまでのものと勝手が違います。先に挙げた気候変動であったり、不安定な海外情勢による物資の高騰、新たな貿易体制による海外製品との市場競合など、ひとつだとしても厄介な案件がいくつも重なり合って押し寄せています。これらの問題が煩悶を課すのは、解決のための猶予を与えてくれないことです。明日の、あるいは明後日の日本の農業、そして皆さんの将来の仕事がかかっており、皆さんが経験や知恵を獲得するまで解答を待ってはくれません。では、そこで皆さんに求められるのは何か。おそらくは「知識」で

あり、その知識を実践に結びつける「技術」だと思います。家畜が望ましくない状態になったとき、どのような根拠に基づいてどう対処したらよいか。経営が計画通りに進まないとき、どのような理論に従ってどう方針の転換を図っていったらよいか。そういった知識とそれを現場に生かす技術が大切になってくるはずです。本学の別科教育では、家畜の生理化学から栄養管理、行動管理、飼料作物の栽培や農業機械の操作、酪農経営など、酪農業に携わる人材として必要とされる多岐の学術領域の知識を教授する講義が開講されています。また、そこで得た知識を実践する技術を養う実習科目も充実しています。

2年間という期間は、実に短いです。皆さんは、それぞれ大きな目的を持って本学に進学を決めたはずです。その目的を全うできるよう、限られた期間を使ってできる限りの知識と技術を身につけてください。そして、この課題の多い時代に、卒業とともに即戦力として日本の酪農業を支えられる人材へと育って行ってください。本学には、実家が酪農業を営んでいる学生や、子供の頃から農業に触れてきた学生がたくさんいます。対称的に、これまで実際の農業には全く接してこなかった学生もいますし、もしかすると皆さんとは全く異なった理想や哲学を持った学生もいるかもしれません。学生生活を通じて、様々な経験や考えを持った友人と触れ合い、広くて偏りのない柔軟な発想を養ってください。

在来生所感



共同獣医学課程 2年
三賀 蒼生

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから大学生活が始まり、今までよりも自由でできることが多くなる半面、初めてのことが多く右も左もわからなくなってしまう場面に直面するかもしれません。しかし今までとは違い、自分の役に立つ情報は望んでいるだけではなかなかこちらの元にはやってきてくれません。これから先重要になってくるのが兎にも角にもまず行動してみるということです。先輩をはじめとして、ためらわずにいろいろな人に話しかけてみてほしいです。人とのつながりは思いがけないところで自分にプラスとなる情報をもたらしてくれるはずですよ。

そしてもう一つ大事にしてほしいことが時間は有限だということです。限られた時間の中で過ごすには北海道という土地は広大すぎます。十勝ならではの農家バイトや搾乳バイト、豊かな自然の中にある観光地、素晴らしい動植物の数々などその可能性は無限大です。大学生という長いようで短い期間の間に北海道を満喫するためにも、常に自分にできることを考えてぜひ実行に移してほしいと思います。その中でも体調管理にはしっかりと気を配ってください。一人暮らしで体調を崩すのはかなりしんどいです。くれぐれも無理はしないでください。

最後にはなりますが、大学生の可能性は無限大です。なんだってできます。この畜大での学生生活が新入生の皆さんにとって実りあるものになることを願っています！



畜産科学課程 2年
山根智紗乃

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。受験を乗り越え、これから始まる大学生活に胸を膨らませる一方で、新生活への不安を感じている人もいるでしょう。

私も同じような気持ちで、入学の日を迎えたことを覚えています。

本学では、畜産に関わる学問の基礎を、一年次から幅広く学ぶことができます。「畜産」というと、動物のイメージが強いですが、農村、植物環境、農業機械、土壌、経済、環境工学など、多くの視点から畜産について学び、それぞれの分野の基礎に触れることで、興味のある学問を見つけるきっかけにもなりました。こ

うした座学だけではなく、実習も行われるため、直接的な体験を通して学びを深め、必要なスキルを早くから身に付けていくことができる点も魅力のひとつです。

また、寮での生活では、先輩方からのサポートもあり、すぐに馴染むことができました。サークル活動も盛んな本学では、横の繋がりはもちろん、縦の繋がりも作りやすいので、先輩方との交流を深めたい、色々な人と関わってみたいという方は、ぜひ興味のあるサークルへ足を運んでみてください。

その他にも、学内でのボランティア活動に参加することもおすすめです。私は、昨年行われたオープンキャンパスに、学生スタッフとして参加しました。当日、会場の様子を見守るだけでなく、高校生たちの受験の相談や質問に答えるなどの対応もしました。この経験を通して、自分に自信がただけでなく、コミュニケーション能力を高めることもできたと感じています。

皆さんも、興味のあることに前向きに挑戦し、たくさんの思い出を作ってください。これから始まる学生生活が充実したものとなるよう祈っています。

在来生所感



畜産科学課程 2年
松崎 優芽

帯広空港に降り立つ。肌を刺すような冷たい風が吹く。友人の車に乗り込む。平坦な道を進む。ひたすら続く、畑、畑、畑…。家に着いた。家畜臭い。帯広に…帰ってきた！

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます！

期待と不安がいっぱい…いや、私は不安しかありませんでした。小中高でも年度が替わると、新しい人に出会う度、うまくやっていけるだろうかと不安になっていたのに、ましてや知り合いもない土地、初めてが多すぎる環境。あの期待感はどこへやら…な、スタートでした。期待に満ち溢れたあなたは大丈夫！不安しか無いあなたも、もちろん大丈夫！

この一年間何をしたらろうかと写真を見返してみると、あまりにも濃い一年で。ずっと昔のようにも、昨日のようにも感じるような不思議な感覚でした。酪農家さんのところで実習させて頂いたり、種苗会社の方と一緒に採草地を巡る勉強会をしたり、朝6時半からひたすら雪かきをしたり、これはほんの一部ですが、もし畜大に来なかったら出会わなかったであろうものに沢山出会うことが出来てとても楽しいです。

私は前期で畜大の獣医に落ちて、後期で畜産科学課程を受験しました。もしかしたらこれを読んでくれている方の中にも、本当に行きたい場所は違った方もいるかもしれません。ただ、今まで出会わなかっただけで、ワクワクするようなことが転がってるかも!?楽しんだもん勝ちです。

私も、勉強会の復習をしなればとか、これ参加したい、ここも行ってみたい、あの人にもっと詳しく話を聞いてみたいとか、やりたいことがまだまだあります。みなさんが帯広畜産大学での生活を全力で楽しむことができるよう願っています！



別科 2年
鳥淵 永治

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

これから故郷を離れ、単身で十勝の広大な土地での一人暮らしや大学生活が始まるにあたり、多くの方が期待や不安を抱えていると思います。もちろん、私もその一人で、1からの人間関係の構築やアルバイトなど、様々な不安があったことを覚えています。しかし、実際の生活はそんな悩みも吹き飛ばすほど充実しており、今では毎日が冒険のように楽しく感じています。そこで、私がこの一年間で経験したことをお話したいと思います。

別科は年の半分を校内の畜産フィールド科学センターで実習を行います。しかし、正しい知識や技術

がなければ、実習での管理は到底うまくいきません。そのため、講義で衛生管理学や家畜繁殖学など、専門的な知識を学びます。そして、それをその日のうちに牛舎での作業に活かすことができるため、知識の吸収もしやすくなります。またさらに応用してちょっとした変化に気づくことで、意思疎通が難しい動物相手でも最適な管理ができるようになるなど、卒業後には即戦力として活躍できるような環境が整っています。

勉強だけに留まらず、他にサークル活動や観光、カラオケで夜を超すなど遊び方は無限大です。畜大ならではの動物に関わるサークルに参加したり、優しい先輩、同級生と仲良くなればより一層人生が華やかになります。疲れた時には遠出して大自然に身を委ねてみるのもいいですし、もし車があるなら北海道を一周してみたり、存分に楽しんでください。別科は2年間しかありませんが、大学生はなんだってできます。挑戦を怖がらず、人との出会いを大切に。ふと思い出したときに笑えるような瞬間を全力で楽しんでください。

令和6年度 学位記並びに修了証書授与式 開催



令和7年3月19日（水）本学講堂において、令和6年度学位記並びに修了証書授与が挙行されました。

長澤秀行学長から、共同獣医学課程・畜産科学課程、別科、博士前期課程の代表者と、博士後期課程及び博士課程の修了者に学位記・修了証書がそれぞれ授与されました。また、卒業生を代表して、畜産科学課程の喜羽夏未さんによる答辞が行われました。

各ユニットと別科における学業成績優秀者の表彰もあわせて行われ、表賞状の授与と記念品の贈呈が行われました。

最後に、マンドリンサークルにより伝統の逍遥歌が演奏され、式典が締めくくられました。

本年度は、畜産学部224名、別科13名、大学院66名の合計303名が、本学での思い出を胸に巣立っていきました。



☆ 飲酒に関する注意 ☆

【飲酒に関する重要なルールと適切な対応について】

日本の法律では、20歳未満の者による飲酒は厳しく禁止されています。大学生であっても20歳になるまでは飲酒をしてはいけません。飲み会などの場においては、20歳未満の学生にネックストラップやステッカーを着用させるなどの具体的な対策を講じ、誤って飲酒をさせないよう徹底してください。

万が一、飲酒を勧められたり強要された場合は、はっきりと断ることが必要です。また、そのような事実があれば、学生支援課や学生相談室に速やかに連絡してください。

【飲酒を強要しないためのルールと危険な飲み方の禁止】

イッキ飲みは急性アルコール中毒を引き起こし、最悪の場合は死に至る危険な行為です。コールをかけたり、強要ではなく自らイッキ飲みを行っている場合でも、周囲が危険な飲み方をしている場合は、止めるようにしましょう。

【まとめ】

20歳を超えた後でも、適量を守った飲酒を心がけ、危険な飲み方を避けることが重要です。飲酒の問題が発覚した場合は、厳しい処分を行います。学生一人ひとりが責任ある行動を心がけ、安全で健全な学生生活を送りましょう。

☆ 交通事故防止について ☆

本学では、通学での自動車等の利用については、一定の条件のもと許可していますが、通学に際してはなるべく徒歩、自転車等の利用をおすすめしています。

構内の駐車場を利用する場合は、本学が実施する「交通安全講習会」を受講の上、Webで「駐車場許可証」の交付を受ける必要があります。学内やその周辺において、無断駐車をした場合は厳しく対応しますので、十分ご注意ください。

一方で、帯広での普段の生活には自動車が欠かせないことも事実で、多くの学生が在学中に免許を取得し、自動車を所有しています。サークルの遠征や友人同士の旅行などでも、自動車で移動することが多くあります。

自動車の利用は大変便利な反面、交通事故に遭うリスクも生じます。大きな事故を起こしてしまうと、それだけで大切な学生時代を棒に振ってしまうことになりかねません。

飲酒運転や危険運転等、法律で禁止されている行為をした場合や、過失であっても人身事故を起こした場合は、民事・刑事・行政上の責任を問われるだけでなく、大学からも退学や停学といった処分が行われる場合があります。

自動車の利用におけるリスクを十分に理解し、常に安全運転を意識してください。

また、どんなに安全運転を心がけていても、事故に遭ってしまう可能性があります。自動車を購入する際には、自賠責保険だけでなく任意保険にも必ず加入するようにしてください。

☆ SNSの利用にあたって ☆

【SNS利用における注意点とトラブル防止について】

大学生になると行動範囲が広がり、SNSに関連したトラブルも増加します。SNSは不特定多数の人が閲覧できる場であり、投稿内容によっては誤解を与えたり、権利を侵害したりするリスクがあります。限定公開（鍵アカウント）でも、引用・コピーにより拡散する恐れがあるため、慎重な利用が求められます。

SNS利用時の具体的な注意点：

プライバシー保護：他人の情報や写真を無断で掲載することはプライバシー侵害になります。

誹謗中傷の禁止：SNSは匿名性が高いように見えますが、開示請求により発信者が特定される場合があります。大勢の前で言えないことはSNSでも発信しないことが原則です。

内部情報の漏洩防止：アルバイト先等で得た情報や職務上の秘密は、外部に公開しないよう注意が必要です。

セキュリティ対策：SNS上には偽アカウントやスパム、フィッシング詐欺などのリスクが存在します。見知らぬ人との接触や不審なリンクのクリックは避けましょう。

位置情報の流出防止：写真掲載時に意図せず位置情報が公開される場合があるため、投稿前に確認しましょう。

SNS上の情報を全て鵜呑みにせず、社会のモラルを守る責任ある行動を心がけてください。トラブルに巻き込まれた際は、学生支援課に相談するなど、早めの対応を行いましょう。

☆ 消費者トラブルに巻き込まれないために ☆

成年年齢が18歳に引き下げられたことで、大学生は親の同意なく契約が可能になりました。自由度が増す一方で、契約に伴う責任を自分で負う必要があります。しかし、知識や経験の浅い若年層を狙った悪質な取引や不当な契約も多く、安易な判断がトラブルの原因となることがあります。

特に、「簡単に儲かる」「他より異常に安い」といった広告や、「判断を急がせる」「お金がないなら借金を」と勧める業者には注意が必要です。インターネットやSNSを通じた副業サイト、暗号資産投資、美容サービスなどのトラブルが多発しています。こうした勧誘はうのみにせず、必要がなければきっぱり断る姿勢が大切です。

また、契約を結ぶ際には1日置いて冷静に考える、家族や信頼できる友人に相談することが有効です。さらに、クーリング・オフ制度や消費者契約法を理解しておくことも重要です。特定の契約では、一定期間内であれば無条件で解約が可能な場合もありますし、「嘘をつかれた」「帰してくれなかった」といった状況で結んだ契約は取り消すことが可能です。

もしトラブルに巻き込まれた場合は、一人で悩まずに学生支援課や学生相談室へ相談してください。外部の消費生活センターでも、「消費者ホットライン」188番で相談を受け付けています。契約前の慎重な判断と万が一の際の早めの相談が、トラブルを未然に防ぐ鍵です。

学生支援課 学生生活支援係：0155-49-5310 sien@obihiro.ac.jp

学生相談室：0155-49-5638 soudan@obihiro.ac.jp